

言語教育におけるワークシートの有効活用

－大学英語を例として－

An Effective Use of Worksheets in University-level English Classes: an Example

二ノ宮靖史、二ノ宮寛子
Yasushi Ninomiya, Hiroko Ninomiya

目次

1. はじめに
2. ワークシートとは
3. 大学英語とワークシート
4. 大学英語におけるワークシートの作成例と使用方法
5. おわりに

1. はじめに

教室での授業で教員が学習者(生徒・学生)に教える手段は、実現が容易な順から並べると、口頭で伝える、板書する、教科書・補助教材を用いる、印刷物を配布する、視聴覚教材を提示する、などがある。認識の方法としては聴覚＞視覚＞視聴覚のように発展していくが、その中で最も情報量が多く短時間に認識できるのは、線状性による制限の少ない視覚を通しての認識だろう。

教室における視覚を通しての認識による情報伝達の手段としては、板書、教科書のような出版物、教員が作成する印刷物が考えられるが、板書は簡便に行なわれる反面、教員が提示し、学習者が記録するのに時間がかかる。教科書は、書籍という形式で提供されるため、多くの情報を一度に提示できるが、個々の授業や学習者に細かく対応することができない。印刷物は教員が学生に伝えたい情報を記して複製することを可能にする手段であり、作成に手間がかかるが、教員が必要だと判断した情報を学習者に向けて伝える手段として多く用いられている。印刷原稿の作成手段はおおむね謄写版＞手動輪転機＞乾式コピー＞自動輪転機の順番に変化し、より簡便になっていった。同時にワープロ(あるいはパソコンのワープロソフト)により文書作成が容易になったため、短時間で容易に、また整った形式で教材を準備することが可能になった。

教室で使用される印刷教材の名称にはプリント、ハンドアウト、ワークシートなどがある。プリントとハンドアウトは一般的な意味での印刷物だが、ワークシートは特化された使用目的や機能を持った印刷教材の名称として用いられており、小学校から大学まで各教科で広く使われているものの、その定義や構成法が多様であり、教科の性質やワークシートを使用する教員によっては若干の違いがある。

本稿の目的は、ワークシートの定義を再確認し、ワークシートの構成法を分析することによって、大学における英語教育を例としてワークシートの作成法・活用法を提示し、教員と学生の双方にとって有効に活用可能なワークシートとは何かを提案することである。

2. ワークシートとは

2.1 ワークシートの定義

ワークシート(worksheet)という語については、*Oxford English Dictionary* (OED)に掲載されている最も古い用例としてHarry Sinclair Lewisの小説*Arrowsmith*(1925)がある¹。教育に特化された定義としては“a list of exercises, problems, etc., to be worked by a student”があり、それに対応する用例としては、June Derrick著、*Teaching English to Immigrants* (1966)が載っている²。上の定義に従えば、ワークシートの内容は練習問題等であり、使用者は学習者であるということがわかる。また、作成者(あるいは供給者)は教員であることが推測できる。

ワークシートの特徴のひとつは、タスクが特化されている点である。例えば“TeAchnology”(<http://www.teach-nology.com/>)のような既成の教材を入手できるウェブサイトでは、学年、教科、学習項目等のカテゴリー分けを行ない、多様に細分化されたワークシートを提供している。

ワークシートの意義・目的については、橋本(2006)が一般的な観点から指摘している。「授業中の設問や学習者の作業を特定の流れに沿って配置し、学習者がそれらに対し、シート上に記入していきながら、ある理解に到達することを目的とした教材³」と定義しているが、これはワークシートの性質をよく言い表している。

以上のことを基にワークシートという教材の定義について改めて考えてみると以下のよ

¹ 1925 S. LEWIS *Arrowsmith* xxxix. 427 'I'll find out from my wife what dates we have already and telephone you tomorrow evening'. 'So you let the Old Woman keep the *work-sheet for you, huh?'

² 1966 J. DERRICK *Teaching Eng. to Immigrants* 238 A new type of course, designed for eight-year-old foreign learners, consisting of gramophone records, teacher's notes, and pupils' 'working scripts' which are work-sheets and meant to be expendable.

³ 橋本(2006: 25)

うになる。

(1)媒体

ワークシートの媒体は紙であり、印刷して教室で配布する形式で用いられる⁴。

(2)使用機会

使用機会は多様である。予習、授業中、復習のように、学習の各段階での使用が可能である。

(3)使用手段

ワークシートは学習者が単独で用いる場合とグループで用いる場合がある。

(4)使用目的

予習としては授業の前提となる知識を習得すること、授業中にはテキストとクラスのレベルを合わせることや教員が学生に求める表現や技巧などを習得すること、復習としては授業で学んだことを反復し知識・技能の定着を図ることが可能となる。

(5)期待される効果

ワークシートの導入によって、習得のポイントがつかみやすくなることや、クラスが活性化することが考えられる。

以上のように様式や機能について複数の項目を設定し検討することは、ワークシートとは何かをよりの確にとらえることを可能にするだろう。

2.2 ワークシートの形式と機能

2.2.1 本節の目的

前節で述べたように、ワークシートの形式や内容は多様である。本節では幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学で用いられているワークシートの中から英語に関するものを中心にいくつかを選んで検討することによって、ワークシートの形式と機能について考察していく。

2.2.2 幼児教育でのワークシート

開&長谷川(2004)では、幼児が美術館を見学する際の教材としてワークシートを使用している。ワークシートは絵とひらがなを用いて、数を数える、空欄を埋める、選択問題に答える等のタスクを行なわせるものだが、反応率と正解率の高さからワークシートの有効性を指

⁴電子化してパソコン上で同様のことを行なったり、電子メールで配布したりすることも可能だろう。

摘している⁵。この論文は英語に関するものではないが、ワークシートが高い反応率を得ることが可能な教材の形式であることを示している。

2. 2. 3 小学校・中学校でのワークシート

橋本(2006)では小学校・中学校での理科の授業を題材に、学習者の興味を引き、授業の流れがわかるよう、起承転結のある授業展開(45分)を行なうことによって、ヒトの体、花の構造のような学習項目を理解させようという試みを紹介している。この論文ではワークシートの使用が、「学習者にとって授業の流れが把握でき、しかもそれが授業記録として手元に残るため、学習内容の理解や定着に効果的であると考えられる。また、教師にとっても、学習指導要領をさらに具体化した形で提示することになるため、授業の流れをさらに具体化した形で提示することになるため、授業の流れを学習者の反応をより深く考えながら計画していくことにつなが」と述べている⁶。ここで用いられている「具体化」という語をより明確に述べれば、文字や絵による可視化と筆記の記録性ということであり、これらがワークシートの機能のひとつであることがわかる。このことは、英語におけるワークシートでも同様であろう。また、ワークシートの作成時には「学習者の興味・関心を惹きつけるとともに授業のポイントを明確にする展開を試みた」と述べているが、このようなモチベーションの喚起と維持もワークシートの一般的な機能であると考えられる。

田村(2009)では中学校での英語の授業においてコミュニケーション活動を促進し、言語材料の定着を図るため、コミュニケーション方法を用いて導入とドリルの後にワークシートを利用している。これはワークシートの「理解と復習」という機能の重要性和教科書を補助する教材という位置付けを示している。

2. 2. 4 高等学校でのワークシート

北海道滝川西高等学校(2009)では、高等学校での英語の授業で、理解と定着のためワークシートを活用している。宿題および授業中の活動として予習(宿題)としてのスキミング、スキニング、サイトトランスレーション、ボキャブラリー(内容把握の後にあり、文脈から意味をとらえさせるようにしている)、授業中の活動としては語彙・文法・概要の理解、ストーリー・リテリング、授業終了後の宿題として内容理解(T/F questions)、文法事項理解、

⁵ 開&長谷川 (2004: 72)

⁶ 橋本 (2006: 30)

⁷ 橋本 (2006: 30)

サイトトランスレーション、シャドーイングを行なっている。また、必要に応じてショートエッセー、スピーチのノートテキング、ディクトグロスを行なっている。これらはワークシートを活用することによって行なわれ、大きな効果を上げている。これは、Super English Language High School (SELHi)の事業として行なわれたものだが、ワークシートの活用方法、特にタスクやクエスションの配置や実施の好例でもある。

2. 2. 5 大学でのワークシート

杉浦(2000)では、英語講読授業を改善するためにワークシートを用いた実践例を紹介している。この実践例では「読解ワークシート」という様式で、設問、要約、語彙、感想・疑問の4項目で構成されているものを作成し、「実際に学生にやらせてみる」ことを通して、内容把握と語彙力増強を目指している⁸。また、主な目的として学生が辞書使用に慣れることを挙げている⁹。これは学生に課題を明確に示し、それを確実にこなわせるという点でワークシートの有効な利用法のひとつだろう。

ハウク(2009)では、大学英語に適した学生数を経験則から18~20人であると述べ¹⁰、それ以上の学生数のクラスを教える際の工夫として、グループ活動を行なわせるワークシートと予習としての宿題用ワークシートを紹介している¹¹。これもまた、学生に課題を示し、こなわせるという点で有効であろう。

野村(2009)では「ワーキング・ペーパー」(ワークシートとリアクションペーパーを一体化したもの)を用いたドイツ語授業を紹介している。「ワーキング・ペーパー」の使用目的としてはコミュニケーション・ツール、成績評価のための資料、授業回ごとの授業評価アンケートを挙げている¹²。この実践例の大きな特徴は、授業内容、授業評価、フィードバックを文字という記録として残せることだろう。

二ノ宮(2009)では、英語リーディング教材の補助教材としてのワークシートと視聴覚教材として英語のドラマを視聴する際のワークシートの作成方法を詳細に紹介し、教材としてのワークシートの可能性と学生のモチベーションを増進させる役割を指摘している。またグループワークについても英語運用能力と継続的学習意欲の向上の点から考察し、ワークシー

8 杉浦(2000: 66-67)

9 杉浦(2000: 69)

10 ハウク(2009: 117)

11 ハウク(2009: 125)

12 野村(2009: 15-19)

トの運用の背景としての重要な指摘を行なっている¹³。

2. 2. 6 本節のまとめ: ワークシートの形式・機能・効果

以上のように、初等教育から高等教育まで、いくつかの教科におけるワークシートの使用例を見ていくと、形式・機能・効果の点から以下の事項をまとめとして述べることができる。

まず形式の面からは、タスクが細分化されていることと、視覚化によってタスクの指示が行なわれていることがわかる。

その結果、機能の面としては、タスクが明確に示され、学習の結果が文字・絵などの視覚的情報として記録されると同時に、モチベーションを喚起する役割も果たすことが明らかになった。

また、ワークシートがもたらす効果としては、タスクが明確であるため明確な反応を引き出す効果と、視覚的な記録によって学習過程が詳細にわかることが期待できる。

英語教育について特化すると、形式・機能・効果の点から以下のことが指摘できるだろう。

形式としては大きく分けてふたつある。第一は、教室で使用しているテキストの内容の復習を目的としたもので、個人やグループでの予習・復習や宿題に使用されることが多い。第二は教室で使用しているテキストとは離れた言語表現定着のためのものであり、当該科目で段階的に定着させたい言語表現を、授業中にテキストからは離れて指導する際に使用されることが多い。

機能としては、新規学習項目の予習、授業時の活動、授業後に学習項目の定着を確認することがあげられるだろう。

期待される効果は、上に述べた一般的な観点と同じく、学習過程の明確化とタスクの習得である。

ワークシートの形式・機能・効果について、一般的な観点と英語教育に特化した観点の両方から検討することにより、ワークシートの作成・運用をより多様で有効なものにすることができるだろう。

3. 大学英語のワークシート

大学での英語教育においてワークシートが有効であることを論じるためには、まず大学英語教育の性質と現状の説明が必要かと思われる。まず、大学における英語教育が中学校・高等学校での英語教育と違う点のひとつは、指導要領のように学習項目を定めているものがな

¹³ 二ノ宮(2009: 26)

いということである。中学校・高等学校では文部科学省による指導要領が定められ、各学年に習得する項目が決められており、各学校での教育はそれに基づいて行なわれる。それに對して大学では、教育目標、科目配置は各大学によって行なわれ、授業計画は英語教員全体、あるいは各担当教員によって作られるのが通例である¹⁴。

もうひとつの相違は、大学での英語の授業は、ほとんどの場合、既習外国語としての授業であるという点である。多くの学生は中学校・高等学校で英語を学んでおり、その間理想的に英語を習得できた場合には、発音、文字、品詞(動詞／名詞／冠詞／代名詞／形容詞／副詞／助動詞／前置詞／接続詞／間投詞)、語彙(約3,000語)、文法項目として数(単数／複数)、格(主格／所有格／目的格)、人称(1人称／2人称／3人称)、時制(過去／現在／未来)、相(進行形／完了形)、態(能動態／受動態)、文型(第1文型から第5文型)、文の種類(平叙文／疑問文／否定文／命令文／感嘆文)、不定詞、動名詞、分詞、関係詞、仮定法等の項目を習得し、あいさつ、意見を述べる等の基本的なコミュニケーション能力を身に付け、文・パラグラフ・エッセイの形式で英語を書くことができる。したがって、それらの項目を既習のもの、あるいは再学習の対象としてみなすことになる。

以上のように学ぶ範囲が明確に限定されていない既習外国語を学ぶことになるので、学生のレベルが一樣ではなく、教材として取り扱う範囲は多岐にわたる。そのような状況で授業を行う際に、教室で使用しているテキストの内容や言語表現に即した、授業中に個人やグループで使用することを目的とし、各学生の学習到達度や必要性に合った形で教科書を使用しつつ教科書表現に即した質問・タスクや+αの活動を授業中に個人あるいはグループで行なわせる手段としてワークシートを用いることは、大学生用教科書を実際に教える学生のニーズやレベルに合わせて活用し、グループワークを取り入れることによってクラスをより活性化し、教科書の内容を学習者の周囲の事柄に結びつけ、理解度・認識度を高めることができるだろう。

次章では、そのようなワークシートを作成することによって学習者のニーズに合った効果的に学習のできるワークシートを授業の状況に応じて作成する例を紹介することで、よりよい大学英語教育の実践の可能性を探っていくことにしたい。

4. ワークシートの作成例と使用方法

4.1 本章の目的

¹⁴ 近年では立教大学ランゲージセンターのように全学の外国語教育を各学部から独立した組織で行なう例もある。

本章では、これまで本稿で述べてきたことを踏まえて、大学英語に適したワークシート作成例を紹介する。リーディングの例と視聴覚教材を用いた例については二ノ宮(2009)のワークシートを再考し、その後にメディア英語の例を検討していく。

4.1 リーディングの例

二ノ宮(2009)ではリーディングの教材として二ノ宮&二ノ宮(2008)の中から第6章“The Dentist on the Corner”を例に挙げ、グループ用に作成されたワークシートを紹介している¹⁵。

二ノ宮&二ノ宮(2008)はリーディングを中心とした総合教材で、当該章はパキスタンの無資格歯科医について書かれた文が掲載されている。本文の前後には個人で行なう練習問題が用意され、“Before You Read”では本文で取り扱われている内容と同じトピックについての質問に答えることによって本文の内容を読みやすくする練習を行ない、“Comprehension”、“Listening & Writing”では、本文の内容を思い出す、あるいは本文を参照することで内容の理解度を増す練習を行なうようになっている。二ノ宮(2009)ではそれらの練習問題を基に設問を改変したり追加したりすることによってグループワークに適したワークシートを作成した。このワークシートの特色のひとつは、グループワークに参加する学生の各々に“Leader (リーダー: グループのリーダー)”、“Recorder (記録係)”、“Grammar Checker (書かれた文のつづりや文法が正しいかどうか確認する係)”、“Timer (与えられた時間の中で活動できるように調整する係)”のように役割を与えることによって、グループでの活動が円滑に行なえるように工夫されている点である。また、当該章の元々の設問に、より具体的な設問を追加することによって、より詳細に本文の内容が検討できる点も特色のひとつであろう。

以上のような形式のワークシートでは、内容理解度の伸長が期待できると同時に、グループワークで英語によるディスカッションを行なうことによって、学生が自分の考えを他者に述べ、他者の考えを聞くことによって、英語の思考法やコミュニケーションの様式を練習する機会を増やすことができる。

4.2 視聴覚教材を用いた例

二ノ宮(2009)で紹介されているもうひとつのワークシートは、英語のテレビドラマを視聴覚教材として用いるために作成されたものである¹⁶。教材として使用したのは「フルハウス シーズン 1-1」で、母親が亡くなって父親の友人たちと同居することになり、母親だけでな

¹⁵ このワークシートは本稿末に参考資料①として加筆の上再掲した。

¹⁶ このワークシートについては本稿末に参考資料②として再掲した。

いろいろなものを無くしていく長女のショックを、新しい家族全員で受け止め新しい生活を始めていくというストーリーを視聴することによって、自然なスピードでの会話の表現法を学んだり、ストーリー中にたくさん表れる英語圏に関する知識を習得したりするリスニングのエクササイズである¹⁷。

英語が使用されているドラマや映画を最初から最後まで中断せずに視聴する際には、音声、語彙、文法、視覚情報、文化に関する知識等、多くの情報が線状的に、かつ視覚的／聴覚的に遡及不可能な形式で提示されるので、その全体や詳細を理解しつつ視聴するのは学生にとって難しい課題である場合がある。その際に、補助手段としてワークシートを用いて設問を提示することによって、登場人物や物語の内容、その他の周辺情報など、教材中の情報や構成をとらえやすくすることができる。また、グループワークを行なうことの意義は、前節で述べたのと同様である。

このように視聴覚教材を補助するためのワークシートを用いることにより、学生が教材を視聴する際の認識方法に適切な方向付けを行ない、教材中に多様に織り込まれた情報を的確にとらえる練習を効果的に行なうことができる。

4.3 新聞のニュースを教材に用いた例

本節では新聞のニュースを教材にした際のワークシートを紹介したい。

ニュースは、新しい情報を提供すると同時に情報の分析法を提供するメディアである。この形式のメディアは英語での授業に有用であることが多い。話題は多岐にわたり、学生にとって身近なものから距離的にも意識的にも離れたものまで、毎日大量に伝えられている。英語で伝えられるニュースを適切に理解することで、学生は情報収集力を高め、分析力を養うことができるだろう。

題材はThe Japan Times 2006年4月16日号に掲載された記事“Mean parents spoil school-lunch system”である。小中学校での給食費滞納についての記事であり、数年前に義務教育を終えた大学生にとっては、比較的身近な話題であると思われる。この記事について、詳細についての質問とcontroversyとしての意見をたずねる質問を作成することによって、内容理解の練習と内容に基づいて意見を述べる練習を行なうことができる¹⁸。

以上のように、新聞の記事とワークシートの組み合わせによって、ニュースの理解とディスカッションの両方が可能になり、応用・発展的な授業展開を行なうことができる。本節の

¹⁷ 二ノ宮(2009: 26)

¹⁸ 本稿末の参考資料③を参照されたい。

例では新聞を教材として用いたが、その他にも雑誌の記事、ラジオ、テレビのような視聴覚メディア、インターネットのような双方向メディアを教材にする場合にも有効に機能するだろう。

4.4 本章のまとめ

本章では、リーディング教材、視聴覚教材、新聞を用いたワークシートの作成例を紹介した。共通の特徴としては、言語情報の受容を主な目的とした教材を使用する際に、受容の方法・方向性を示すことと、受容した情報を基に自分の意見を述べる活動を追加することである。これらふたつの特性をひとつの教材に持たせることで、教員は教える必要のある事項をわかりやすく提示し、学生は習得すべき事項を明確に認識し、練習すべき技能の意義を理解することができるだろう。

5. おわりに

本稿では、ワークシートの定義について検討し、ワークシートの構成を分析し、大学英語におけるワークシートの作成例を紹介することによって、教員と学生の双方にとって有効に活用することができるワークシートとは何かを提案することができた。

ワークシートという教材は、英語教育に有用であるばかりでなく、他の外国語、あるいはほかの分野においても学習効果の伸長やモチベーションの増進に資する可能性を持っている。ワークシートを効果的に使用することによって、学習者の状態に即した教育を進めていくことができるだろう。

参考文献

- 橋本健一 (2007) 「ワークシート教材を用いた授業の展開—理科教育での授業を例として—」『千葉県立衛生短期大学紀要』第25巻第2号, pp. 25-32
- ハウク, アラン (2009) 「大人数クラスにおける双方向授業のあり方」『大東文化大学語学教育研究論叢』第23号, pp. 115-130
- 開仁志・長谷川総一郎 (2004) 「幼児における美術館見学—ワークシート作成の試み—」『富山大学教育実践総合センター紀要』No.5, pp. 69-80
- 北海道滝川西高等学校 (2009) 『スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(SELHi) 研究開発実施報告書(第二年次)』北海道滝川西高等学校
- 二ノ宮靖史・二ノ宮寛子(2008) 『ほんとうに面白い「ニューヨーク・タイムズ」 総合英語』松柏社

- 二ノ宮寛子 (2009) 「学習意欲増進のための英語視聴覚教材作成ヒント」『立教大学ランゲージセンター紀要』 21号, pp. 25-34
- 野村廣之 (2009) 「ワーキング・ペーパーを用いたドイツ語授業」『北里大学一般教育紀要』 14, pp.13-22
- 杉浦宏昌 (2000) 「ワークシートを使った英語購読授業の改善法」『メディア教育開発センター研究報告』 14, pp. 61-69
- 田村岳充 (2009) 『4技能を高める！コミュニケーション・ワーク37』 明治図書

4. 1) 6 2) 4 3) 5 4) 8

5. F

6. license

7.

A: He thinks that licenses are important to make people trust his/her ability.

B: She thinks that it doesn't matter whether the person who can work professionally holds a license for the job or not.

8.(example)

I think if there's any license in an occupation, one should get one to make others trust his/her ability.

It is especially needed for those who are going to get a new job in a new environment. If an employer does not know about who you are and what you can do, holding a license is the only way to prove your ability.

Script

A(male): Do you think that a license is important?

B(female): If a person without a license can do his/her job alright, I don't mind. For example, I cut my family members' hair. They look all nice and happy.

A: Well, I think if there's any license in an occupation, one should get one to make others trust his/her ability.

B: I understand your idea, but if he/she can prove what they can do without a license, it should be OK for people who are receiving his/her service.

Full House - the first episode

Name[]

Leader []

Recorder []

Grammar Checker []

Timer []

By using the Internet, try to find the basic background of the drama. You will have 15 minutes to use the computer, then will have 15 more minutes to check the answers with your group members.

1. Televised period: 19[]~[]

2. Number of episodes: []

3. Production company: []

4. Location (Town & country): [, in]

5. Main characters:

Father of three daughters (his wife has passed away): []

The eldest daughter: [

The second daughter: []

The youngest daughter: [

Younger brother of Danny's wife (he wants to be a musician):[]

A friend of Danny (a comedian, too): []

6. One thing that all the main characters have in common is: [].

7. 'Full house' means [].

8. The Internet I have searched and used was as follows (write URLs below):

Answer the questions below with your group members.

9. List up at least 10 new words and expressions. Check the right spelling of the words and their meanings with your group members. The grammar checker of your group will lead this session.

10. List up and discuss some cultural elements you found different from that of Japan.

11. Write the summary of this episode in 100 words.

12. Write your comments on this episode.

After watching the scene A and B, and answer the questions below.

13. Scene A 'Rules'

1) DJ and Stephanie have been sharing the room. T / F

2) [Their grandmother / Their father's friends] will live in the house.

3) DJ moves to [the garage / the tree house] temporarily.

4) What are the two rules of DJ and Stephanie's new room?

1 []

2 []

5) How did Stephanie get out from the room?

14. Scene B 'In peace'

1) What are the three reasons DJ feel unhappy?

1 []

2 []

3 []

2) What did Danny say to make DJ move back from the garage?

Answer Keys

1. 1987-1995
2. 192
3. ABC
4. San Francisco, USA
5. Danny, DJ, Stephanie, Michelle, Jesse, Joey
6. They live in the same house.
7. an occasion when every seat has someone sitting in it
8. (students' choices)
9. full house, piggy back ride, garage, set foot, and so on
10. (Examples) Michelle, the baby, owns her room and sleeps there./Everyone in the house wear shoes./All family members kiss and hug with each other./Men enjoy taking care of children.
11. (Example) The three daughters' mother passed away after a car accident. Their father, Danny, decides to invite his brother-in-law and his friend to move in to the house to bring up the children. DJ, the eldest daughter, is not happy about everything. She cannot take them anymore, and decides to move in to the garage of the house, so that she can have her own space in peace. Danny tells her that he needs her in the house, and this is the beginning of the happy family. DJ decides to move in to the house to start her new life.
12. (students' opinion)
13. 1)F 2)Their father's friends 3) garage 4) Don't cross the line. / Never set foot in each of the area.
- 5) She asked her father to give her a piggy back ride.
14. 1) Her mother passed away. / Her grandmother who helped them left. / Her own room has gone. →Everything seems disappearing from her. 2) I know that your mother will treat this problem better than I do, but this will be the beginning of our new family. We need to stick together to make our family a happy one.

参考資料③

Mean parents spoil school-lunch system

Mean parents spoil school-lunch system

Yomiuri Weekly

By MARK SCHREIBER
Yomiuri Weekly (April 23)

"The same people who pay ¥15,000 a month for their kid's cell phone aren't willing to pay anything for their kid's meals."

If Takao Satoyoshi, principal of the Ishiwa Middle School in Fuefuki, a town of 70,000 in Yamanashi Prefecture, sounds bitter, it's because his school cafeteria has been stuck with the check — in a manner of speaking. Too many parents won't fork up for their child's meals.

Of 654 students at Ishiwa Middle School, 21 are in arrears, and the number has been increasing of late.

So Satoyoshi mailed a notice to parents and guardians that read, "If the charges are in arrears for two months without any notification, we will be obliged to halt food service."

In other words, no more free lunches.

"Of course we don't want to have to halt the lunches," Satoyoshi tells Yomiuri Weekly. "The kids haven't done anything wrong. But some parents refuse to pay, despite their ability to do so, and we're worried that if we can't pay our vendors we won't be able to keep up the lunch program."

Monthly charges for meals at public schools in Japan range from ¥3,900 to ¥4,500. Schools are responsible for collecting payment. In former times students brought payment in cash, but this method has been supplanted by bank transfers.

In true hardship cases, such as a parent being laid off due to corporate restructuring, a system is in place by which national or local governments can make up the shortfall. But it appears that in most cases, rather than out of genuine economic hardship, parents are merely saying they simply "don't want to pay."

This parsimony, unfortunately, is no trifling issue. Yomiuri Weekly provides two examples of how these lunch deadbeats are becoming a burden on school districts. In 2004, public schools in Tokyo's Katsushika Ward had 304 cases, creating an ¥8 million deficit. And in Sendai City, the 1,395 unpaid cases in 2004 pushed the city's total accumulated deficit to a whopping ¥62.99 million.

Increasingly desperate, Sendai feels it has no choice but to adopt a tougher stance.

"As long as it doesn't result in meals being cut off, parents seem to give this low priority when budgeting their household expenditures," a member of the city's board of education observes.

Back in Fuefuki, schools have gone to the extreme of enlisting classroom teachers as bill collectors; but even this has met with scant success.

"When teachers call on the students' homes, parents often tell them flatly, 'It's compulsory education, so we aren't obliged to pay for meals,'" sighs Satoyoshi.

"School lunches are just the tip of the iceberg," says Satoyoshi. "Some parents aren't paying into the school-trip fund, or for supplementary learning materials and so on. These costs come to even more than the meals. The deficits are reaching crisis levels."

In the early postwar years, when public welfare was nonexistent, it was not rare for saintly teachers to assist impoverished students, extending long-term loans out of their own pockets. But now, it seems, it's the parents who may be taking food from their own children's mouths.

Whether out of stinginess or apathy, these self-centered spongers are wreaking financial havoc on the school-lunch system.

(From The Japan Times, 16 Apr. 2006)

Name: []

1. What is the problem of this article?
2. What is the percentage of students who do not pay for school lunch at Ishiwa Middle School?

3. How can we pay the school lunch these days?
4. In Katsushika, how much deficit does the city have?
5. What do you think about this problem?

Answer Keys

1. The increasing number of parents who do not want to pay for their children's school lunches make it difficult for some schools to provide lunches.
2. About 3%.
3. By bank transfer.
4. Eight million yen.
5. (students' opinion)